

「宗門改め」のこと(二)

あらた

『いっぽ てつぽ なな あつた)配下の修験なので、支丹宗門 重々御改被成
ぼ、すいしよの かんぶく 『組織の成員はその日必ず 二付キ 起請文(写真②)
ろ、ひこさん こんげん、 入峰、宗門判形登山せよ 書上申ス事』という文書が
さむらいちんこの け!』と指示。但し大風で登山成 残されています。

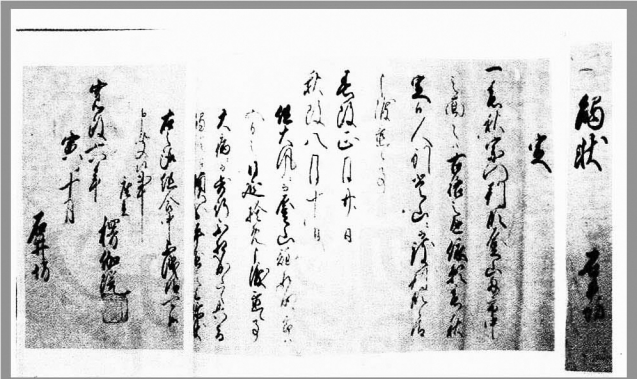
〔高橋健吾著「霧の法師たち」〕これは一時代前までの
の篠栗の子どもたちが、鬼
ごつこの鬼決めめとき歌つ
ていた童唄です。ここに歌
われているのは英彦山山伏
なのですが、それと並立、
ときに激しく対立してきた
のが宝満(竈門) 山系修験
道山伏でした。

「石井坊文書」寛政6
(1794)年の「触状」(写
真①)によれば、「宗門改
め」は春改め正月20日、秋
改め8月10日と定められ、
こちらは村方と異なり、宝
満山楞伽院(院主の坊舎は
現キャンブセンター辺りに
1860)年に書かれた「切
た場合は、拙僧どもを厳罰

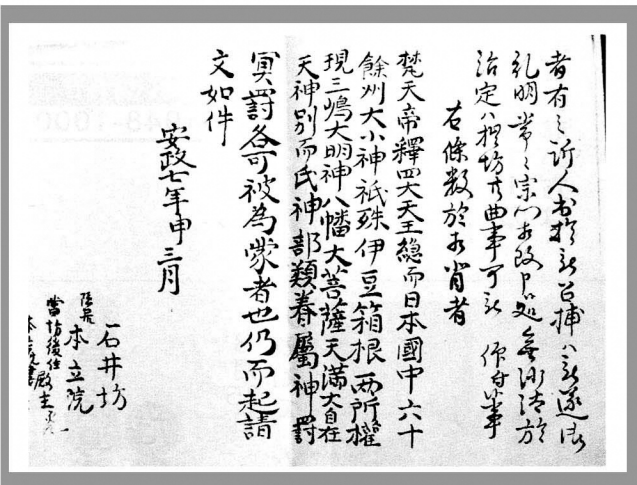
に処してください。(中略)
右の誓約に違背した場合は
(中略)日本国中式内式外
大小の神祇三千一百三拾余
座、天神地祇八百万神、殊
に伊勢両大神宮八幡大神春
日四所大神、別して産土諸
神に、神罰蒙るべき者なり。
仍て起請文、件の如し。』

こんなにも重々の誓約を
強いられ続けてきたのです。
「文明の衝突」(アメリカの
政治学者ハーバード大教授
サミュエル・ハンチントン
が1993年に発表、21世
紀の世界紛争を予見してい
るとして、世界に衝撃を与
えた著作)に示された衝突
の先例でしょうか。この史
実から、覇権を握った支配
者が最も恐れるのは何かが
見えてきます。

それは切支丹に限りませ
ん。組織された信仰者の殉
教心の強靱さです。あの天
下布武を掲げて全土制圧目
前だった織田信長は、本願
寺一向一揆衆徒に手を焼
き、業を煮やして比叡山を
焼き討ちし、高野聖数百
人を捕らえ、容赦ない殺り
くを行いました。さて、こ
のように地方の古文書の断
片から、日本史の、世界史
の、深層が見えてくるでは
ありませんか。異文化排除
支配から、異文化受容共生
へ。人類の直面する難題も。



写真①：触状



写真②：起請文

篠栗古文書会員
文化財専門委員

舛添公夫